

## 第3回市立秋田総合病院病院建設検討委員会報告

1 日時 平成27年7月29日(水) 15:00～16:00

2 場所 理事長室

3 出席者

小松理事長(進行) 伊藤病院長 水俣副院長 松尾副院長 円山副院長  
中川内科診療部長 佐藤外科診療部長 吹谷看護部長 南雲薬剤部長  
本間事務局長 糟谷事務局次長  
福祉総務課(オブザーバー) 眞崎参事、西崎主査  
経営企画室(庶務) 伊東室長、伊藤室長補佐

4 議題

- (1) 将来構想の検討について
- (2) 建替えの概略規模の検討および建替え適地の洗い出し
- (3) その他

5 審議経過

事務局

ただいまから第3回市立秋田総合病院病院建設検討委員会を開会する。  
会の進行は、委員会設置要綱の定めより理事長にお願いする。

委員長

今回から病院の将来構想や概略規模、建替え適地の洗い出しといった具  
体的な検討に入るため、活発な議論をお願いする。  
では「将来構想の検討について」説明をお願いする。

事務局

(資料に基づき説明)

委員長

今の説明について、何か質問等はないか。

(特に質疑等なし)

次に建替えの概略規模の検討および建替え適地の洗い出しについて説明  
をお願いする。

事務局

(資料に基づき説明)

委員長

今の説明について、何か質問等はないか。

委員 当院は一般、精神、結核と三種類の病床を持つため、病床の面積は提示された計算より広めになると思う。結核病床について利用状況はどうか。

委員 結核病床は22床あり10名程度の利用である。結核菌群の株が同じだと同室で加療可能らしいが、ほぼ個室としての利用となっている。

委員 来年度の基本構想策定の際、当方の意見を述べながら個別の面積等の具体的な中身を詰めていくこととなるが、今の段階では、基準といわれる数値で余裕を持ちながら、候補地を選定していく必要がある。

委員 当院が位置するような企業が多い中心部では、ドックや健診にも力を入れる必要があると思うが、そういった点も考慮すべきではないか。

委員 この1床あたりの延べ面積には、病院の全ての施設を含んだ面積となっている。秋田市内の総合病院の状況や設計会社からの情報では、1床あたり80㎡みれば十分といわれている。詳細は来年度以降詰めていくこととなるが、現段階では、この面積を確保出来る候補地の絞り込みを検討していくこととなる。

委員 文化会館は駐車場部分を含めれば結構な面積になると思うがどうか。

委員長 駐車場は私有地であり、文化会館からは離れている。

委員 駐車場などの周辺も含めると結構な面積になる。海拔はどうか。

委員 約5mであり、秋田市内の平均的な海拔である。現病院は9mである。

委員長 こうやって見ると現在地でも検討できるのは、大きい。安心感がある。

委員 資料にある現地建替えと移転のメリット、デメリットの留意事項として、門前薬局等の周辺施設の状況とあるが、移転の場合、法的にはまだ認められていないものの門内薬局に貸し出す敷地も見越して検討する必要があるのではないか。救急との関連を考えた場合、病院が店舗敷地を用意することで、現在、薬局サイドで決定している営業時間等を病院側が主導でき、患者の利便性を向上できるのではないかと思われる。

委員長 現地建替えのデメリットとして建替え費用の増加とあるが、どういったことか。

委員 現在の建物を稼働しながら、それを避けて新しい建物を建設する制約があるため、フリーで建てる場合と比べコスト増になると思われる。

委員 少子化に伴う小学校の統廃合で活用できる可能性はないか。

委員 小学校はグラウンドがあり魅力であるが、現在の所そういった話はない。

委員 救急に関連し、ヘリポートの検討も必要である。

委員 ヘリポートを屋上に作る場合、専用エレベーターの設置が必要となりその分コストはかかる。

委員長 駐車場への設置も敷地が狭く難しい。

委員 現地建替えを考えた場合、これからお願いする北東側の私有地に駐車場

を作って、建替えを進めていくことができると思われるが、その場合、現在の第二駐車場をヘリポートすることは可能か。

委員

病院の敷地内でヘリコプターから患者を移動させるのは大丈夫だが、第二駐車場の場合は、間に公道があるため困難だと思う。川尻小学校のグラウンドをヘリポートしても公道は救急車での移送が必要になるため、活用できないのと同じだと思う。

委員

屋上設置の場合、エレベーターが故障し使えないケースが想定されるため、新しく作る駐車場を立体駐車場とし、その屋上にヘリポートを作ってそこから渡り廊下で院内へアクセスする作りも考えられる。

委員

公共交通機関でのアクセスについても検討が必要である。

委員

現在、土崎・泉方面からのアクセスが不便であり、今後の高齢化を考えると検討課題である。

委員長

泉方面からのバスの運行はどうか。

委員

朝の通勤時間帯に新屋方面へ向かうバスが数本あるだけである。

委員長

以前、秋田市から中心市街地循環バスの延伸について打診され調査したが、その時点では南西方面からの来院が多く駅方面からのバスを利用している患者は少なかったため、見送った経緯がある。

泉方面からの需要はもしかしたらあるかもしれない。

委員

市立病院と関係の深い紹介医が多い地区である。

委員

泉地区には、秋田厚生医療センターにいくバスがある。

委員

どちらかといえば八橋地区からの来院が多いと思う。

委員長

秋田市で進めるエイジフレンドリー構想にからめて、病院の近くに停留場を設け、路線を引き込むといった交渉もできるかも知れない。いずれ幅広く検討していく必要がある。

本日の内容を含め事務局から原案を作成してもらい、次回以降原案の検討を行っていくが、何かアイデアや意見等あれば、あわせて検討していくので知らせて欲しい。

本日の案件は以上であるが、ほかに何かないか。

事務局

次回委員会は、8月21日（金）午後2時を予定している。

以上